



2023年
2月28日
発行

日本山岳会

「高尾の森」通信

—広針混交の豊かな森づくり活動—

会員数：164名
(2023年1月末現在)

2014.2.8 雪の小下沢



立春が過ぎ、暖かい日が増え

眠っていた森の木々は冬の休眠から徐々に目を覚ましていきます。

寒い季節もあと少し、

芽吹きに向けて静かに活動を始めています。



雪虫

冬の使者と呼ばれ、北海道では雪虫が飛ぶと1～2週間後には雪が降ると言われてるが、実はアブラムシの仲間であり、代表的な雪虫の正式名称はトドノネオオワタムシといい害虫とされている。体が白い綿で覆われた雪虫は10月中旬～下旬の無風でよく晴れた日にトドマツから飛び始める。俳句では冬の季語もある。

絵：横川 信由

<http://JACtakao.net>



コロナ禍明けの年に際して

代表 大塚哲生



日頃より当会の活動に格別のご理解とご協力を賜り、
厚く御礼申しあげます。

さて、本年は待ちに待ったコロナ禍明けの年と僭越ながら位置付け、会員の皆様には台風19号前の多彩な活動を楽しんで行って頂くと共に、安全と健康に心掛け、一日も長くこの活動を続けられるように、活動再開者や新規会員に活動の輪を広げ、楽しく皆で将来につなげて行きましょう。

■当会を取り巻く情勢

先ず、小下沢林道の当会ベースまでの復旧後（本年3月末頃の見込み）は、約3年5か月ぶりに車両による人と物の移動が可能となり、パワーアップしたベース内外の各種活動が再開可能となります。

次に、新型コロナウイルス感染症が本年5月頃に5類に見直された後には、屋外活動への共感を得られると共に、参加意欲も向上すると考えます。

以上の情勢や傾向から、久しぶりの活動再開者が増えると共に、新規会員も増え、当会関連イベントも増えると考えます。

■安全喚起と研修活動

当会として、新たな活動の担い手の方を含む会員の方向けに、いろいろな安全と実践スキル・知識向上の為の研修を行ってまいります。

具体的には、初回参加者向け研修・定例前の安全喚起・



チェーンソーや刈り払機の特別講習と実践講習、それらに加え、森の研修等も新たに企画しております。

研修や講習受講後は、より安全な・より深化した実践技術と知識を作業活動に利活用して下さい。

■活動の輪を広げる

定例作業の折やメールやホームページや会報にて、上記の研修日程やベースでの（親子や青少年向け）自然教室・ベース外展示会等開催情報や定例外の各種作業日程を、お知らせしております。

新たに会に参加された方が当会のいろいろな活動に興味を持たれた場合には、先ずは、活動班の先輩会員に遠慮なく声をかけてみて下さい。先輩会員の方々は、これまでに参加されたいろいろな活動の内容を、その活動に参加された事の無い方や新たに会に参加された方にお話し下さい。

以上、本年も当会活動の新たな担い手を迎え入れると共に、台風19号前よりも更にパワーアップした多彩な活動実施を目指して、将来につなげて行きましょう。

北安曇野(長野県大町市)の 美林見学会に 参加して

松隈茂

荒山林業の森づくりの考え方に対する接して



中綱神社にて



鹿島槍ヶ岳を背に



被害カラマツを
伐採した跡

本年の開催が危ぶまれていた美林見学会が開かれるうことになり、2022年11月16、17日に大塚代表以下7人で長野県白馬村にある荒山林業さんの森林見学に行ってきました。美林見学会はコロナ禍で2年間中止が続いており、今年は山仲間に幅広い交流を持つ相澤さんのご尽力により3年ぶりの開催です。

初日は東京から宿泊地の大町に至る道中、小口さんの出身地の諏訪を経ることから諏訪大社参拝（下社：御柱、御柱木落坂など見学）と、相澤さんの山仲間の大町温泉郷カเฟひのき（オーナー：帶川まり子さん インド国立登山学校卒業でインドの現地ガイド）に寄り、中綱神社脇の民宿中綱館に宿泊。夕食時は、北アルプスの上部に雪があり寒い朝、山の上に行くと下に雲海が広がっているかもなどの話題で盛り上りました。

なお、今回荒山林業のご主人が体調不良のため荒山さんにご配慮いただき、急きょ荒山林業の森林を知りつくした元従業員の山仕事創造舎 香山由人さんに案内いただくことになりました。

翌日は朝食後早めに宿を出発し、鹿島槍スキー場を経由して対岸の丘陵地にある大町市有林や松本市、上田市などの上に広がる見事な雲海を眺め、鷹狩山森林まなび公園駐車場で香山さんと合流。

案内場所は、香山さんが手がけた大町市有林（大町山岳博物館の東側丘陵地上部）を案内いただきました。こ

こは約20年前に春先の着氷被害（重みで枝、梢が折損）があり、その被害木処理をする事となり、その際、香山さんたちが荒山林業の森林施業の考え方で整理することを提案し、以後その考え方で取り扱っているとのことでした。これは「人工林の被害カラマツは全部伐って優良な広葉樹が出てくれば育てる。また、広葉樹林の中の優良なものは残し、形質の悪いものや寿命に近いものは伐る。」という考え方で、優良な広葉樹ミズメ（ウダイカシバ）は是非残したい、脇のコシアブラは寿命に近いので切りたいなど具体的に示していただきました。これらの説明を通じて、よりよい森林を作っていくといった熱意が十分伝ってきました。

荒山林業の森林は3分の1が人工林、3分の1が落葉広葉樹を主体とした天然生林が占め、日本海側の豪雪地帯と内陸の小雨地帯の中間の標高800～1,300mに位置し、豊かな植生、多様なパターンの森林が存在しています。人工林、天然生林とも伐期を設げず非皆伐択施業（全面伐採せず抜き切り）による単木的管理を目標にし、天然生林施業を主体に人工林は天然でまかなえない分を補植するとともに、出来るだけ針広混交林化を進めているとのことでした。

今回の美林見学では、森林の取り扱いについての一つの理想型を示しているように思いました。

カモシカはなぜ増えない?

白井聰一・山崎勇



高尾の森づくりの会の活動フィールドで動物撮影用の赤外線カメラを設置し、哺乳類や鳥類の動きをフォローし始めたのは2010年でした。2013年にニホンジカが、翌年にはニホンカモシカが初めてカメラの前に現れ驚かされたのも束の間、その後シカは急速に出現回数を増やし、これに合わせて個体数（被写体）も急増し、小下沢国有林でかなり繁殖していることがうかがえます。最近では植樹した苗木がたちどころに食い尽くされてしまい、我々にとって強力な有害獣となってしましました。一方、カモシカの出現回数はシカほど急増していないものの継続して出現しており、ここで繁殖していると考えられます。そこで、なぜカモシカはシカほど急速

に増えないのかを両者の生態の違いから探ってみました。

小下沢フィールドのカモシカの動向

高尾山にシカが現れたとき、丹沢や奥多摩での被害状況や群れの動きから推して遂に現れたかというのが第一感でしたが、カモシカは山岳高地に生息する動物であるとの通念があり、この地に現れたときは驚きでした。しかし、その後の撮影頻度は漸増傾向であったため、ここに現れたのは一過性ではないことがわかりました。その後のカモシカの動向を知るため、これまでに得られたデータからカメラの設置場所の標高と出現回数の関係について調べてみました。表1からわかるように、小下沢フィールドの標高の一番高いところで捉えられた最初の映像が、最近では標高のより低いところでも撮影されるようになり、行動圏が低地へ広がりを見せていることがわかります。また、広葉樹林やスギ、ヒノキ人工林など特定の森林を選好して、生活しているようには見受けられません。さらに、シカは急増しているのにカモシカは増えているようには見えません。こうした傾向はカモシカの生態に関係があるのではないかと考え、改めて参考書を繙いてみることにしました。多くの書物の中から

カモシカ&シカ年度別推移（定点8か所）





表1：小下沢フィールドでのカモシカの出現回数

	08エリアAIート 標高 620m	初年度エリア 標高 610m	10エリア東側 標高 580m	T尾根 標高 530m	巨木の森 標高 450m	合計
2014年	1					1
2015年	3			1		4
2016年	6	1				7
2017年	7(1)	3(1)				10
2018年	5	10	2	4		21
2019年	1	5	2	1		9
2020年			4	1	2	7
2021年	1			4		3
2022年		3(1)	2		9	14

*カッコ内数字 () : 親子連れ, () : 単独幼体 の内数

落合啓二著「ニホンカモシカ 行動と生態」が最も有用と考えられたため、これを参考にしました。

カモシカの生態からわかること

高尾小下沢国有林のカモシカの特徴を把握できる生態のポイントを、シカと比べながらピックアップしてみるところのことがわかりました。

1 カモシカの生息環境 草原などの開放的な環境と比べると、閉鎖的な環境の森林では良質な食物が散在している。これらの食物は、量は限定的であるが季節的、年次的に安定供給される。

2 なわばり性 このような少量・安定供給的な食物資源を確保するために、カモシカは雌雄にかかわらず固定的な資源防衛なわばりをもつと考えられる。さらに、オスはメスのなわばりに自分のなわばりを重ねることで配偶者防衛を行っている。このため同性間でのなわばり争いが激しく、異性間ではなわばり防衛行動は生じない。メス間の争いはオス間ほど激しくない。このようななわばりの保持期間はオス 12.4 年、メスは 11.7 年である。しかし、なわばりをもたない成獣がいる。一方、シカは食物を求めて移動し、なわばりを持たない。

3 行動圏サイズ これまで調べられた行動圏サイズは十数 ha から数十 ha であり、ときには 100ha を超えるものがある。行動圏サイズはメスよりオスのほうが大きい傾向がある。

4 子の独立 母親と当年子は基本的に同一行動をとり行動圏の移動をともに行うほど強いきずなを有する

が、1年子になると別行動をとるようになる。2~3歳になるとオスの子の場合成獣オスからなわばり争いと同等の激しさで追われるが、メスの子の場合母親、オスの成獣からの攻撃が激化することはない。追われた子は別の場所でなわばりを確立する。

5 グループサイズ カモシカが観察されるときのグループサイズは単独行動で観察されたものが 75.2% であり、普段 1頭でいることが多い。2頭連れで観察されているのは 20.2% と少なく、このうちほとんどは母親と当年子である。一方、シカはグループで発見されることが多く、群れで生活する動物である。

6 生存戦略 ニホンジカやイノシシと比べるとカモシカの生存・繁殖の特性は、遅い繁殖開始と低い繁殖率、高い生存率と長寿命、低い増加率という点で特徴づけられる。豊富ではないが安定した資源が存在する森林という環境に適応した資源防衛者の生存戦略と考えられる。



以上のようなカモシカの生態から小下沢では次のようなことが起こっていると考えられます。動物カメラに写ったカモシカは1匹がほとんどですが、2017年と2022年に親子連れが写っており、この年か前年に子が生まれたと推定できます。その後生長して独立した子は別の場所でなわばり形成していると考えられ、小下沢では個体数はほとんど増加していないといえます。生息圏は高地から低地へ分散的に広がっていて生息数は全体では増加しているとみられます。近年、カモシカは天然記念物に指定され保護されていることもあり個体数は増加していると考えられますが、シカのように群れにならないため食物を食い荒らし壊滅的な打撃を与えることはありません。今のところ害獣としてのイメージは小さい動物といえるでしょう。

11月活動日記

●例年この時期に行われていた紅葉鑑賞会は、2019年から台風19号被害やその後のコロナ影響で中止していたが、今年は4年ぶりに法人会員を対象に「ミニ植樹祭」が行われた。植樹後はベースで芋煮や料理がふるまわれ、久しぶりのイベントを楽しんでいただいた。

●2022年4月に植樹した苗木のシカ被害の保護のため、苗木の捕植とツリーシェルターの設置が行われた。また、板当地区では、新たな植栽予定地の作業道整備が行われた。



芋煮づくりは
私たちにまかせなさあ～い



こんなにたくさん、今日中に終わるかなぁ？



芋煮できたよ～



ミニ植樹に参加して
メタウォーター(株) 山野英理子



メタウォーターの皆さん



ツリーシェルター設置完了！



大鍋で作った芋煮、うまいッ！



法人会員向けの植樹祭開催ありがとうございました。今回の植樹する場所は四ノ沢からすぐとお聞きしていてベースに行く途中にあるので、いつもより距離が短く楽ちんと思って向かいましたが、植樹する場所が急斜面の一番上でビックリ！それでも斜面と岩？に苦戦しながら、なんとか苗を植える事ができました。これから、苗木が無事に成長して高尾の森に根付いてくれるよう見守っていきたいと思います。また、植樹後にベースでの大きな鍋で作った芋煮、おいしかったです！

12月活動日記



218 林班へ



急斜面で踏ん張れない・・・



B班 作業終了後



終了後は道具の手入れを欠かさず

● 10月に引き続き 218 林班で間伐が行われた。

● 作業終了後 3年ぶりの大忘年会が開催され、たくさんの料理と飲み物で楽しいひと時を過ごした。



3年ぶりの忘年会で皆さんご満悦！



2023 1月活動日記

●年明けは、恒例の山の神への安全祈願から始まる。

●都有林では2023年度の植栽地の地拵えとシカ柵用の支柱の設置が行われた。



安全祈願



出発前の整備は念入りに



これ何に使うの?



植栽地へ



地拵えは初体験の人がたくさん



地拵え完了!キレイになりました



A班 作業終了後



B班 小下沢林道渓間にて



下山後のお楽しみ

もくじ

コロナ禍明けの年に際して	02
北安曇野の美林見学会	03
カモシカはなぜ増えない?	04
11月活動日記	06
12月活動日記	07
1月活動日記	08
お父さんの会ハイキング	09
安全作業のすすめ	10
突然の別れ 三葉さん	11
新会員紹介	11
事務局からのお知らせ	12

清新第一小学校 お父さんの会ハイキング

小下沢ベースに
楽しく明るい声が
よみがえった!



台風やコロナ禍で長い間中止となっていた「清新第一小学校お父さんの会ハイキング」。2022年11月20日(日)総勢73名(お父さんの会父兄26名、小学生31名、当会会員16名)が集まり、久しぶりに小下沢ベースに楽しく、明るい声がよみがえりました。

中止の期間も毎年、お父さんの会の大川代表ほか役員の方々、歴代のOBのみなさんと定期的にお会いして「今年は開催できるかの検討」を開催前の初春から何度も集まり話合ってきました。当日も前々日に開催日の天候不安があり直



前までハラハラドキドキの開催でしたが、みなさんの熱意が通じたのか、幸いにも開催中は雨にも降られずにスケジュール通りに活動ができました。

木下沢梅林前に集合し、赤・青・黄・緑・スカイブルーの5班に分かれてミーティング・体操等を行い、小下沢ベースを目指して北高尾の動植物や地形等の説明を各リーダーが実施しながら進み、小下沢ベースで休憩した後、大ケヤキ・植栽地までハイキングを行い、昼食をとて再びベースまで帰ってきましたが、子供たちは滑ったり、転んだり、結構大変そうでした。

清新第一小学校は江戸川区にあり日頃はあまり山道に慣れていない子供もいましたが、全員元気いっぱい小下沢ベースへ戻ってきて木工作業のウッドカー作成、コースター作り、薪割等々の作業を担当スタッフから教わり、夢中になって幾つも

のコーナーを回って楽しんでいました。

子供たちばかりでなく父兄の方々にも木工作業は好評で結構長い時間をスケジュール的には取ったにもかかわらず、最後まで作業を行っていた姿が今でも目に残っています。

終了後に「お父さんの会の大川代表」より頂いたお礼のMailの一部を紹介します。

「昨日は多大なるご尽力を賜り、子供たちは勿論の事、保護者からも絶賛の声を頂いております。…会員の皆さんのお子たちへの接し方は、まるで御身内の子供達とのやり取りに見える程、心からお気遣い頂いているのを感じて大変嬉しく思いました。本当にありがとうございました。…」

「高尾の森づくりの会」として、将来の森づくりの担い手としての子供たちの森林活動の参加に今後とも協力支援していくことは大切なこと改めて感じています。今回、会員やたくさんの方々の事前の協力が実を結び開催できたことで、今後も継続的に続けて開催できることを参加者一同楽しみにしていること思います。



ウッドカー

安全作業のすすめ……その1



ある保険代理店との共同調査の結果*によると、近年、ケガ・事故発生率は増加傾向にあります（グラフ参照）。

森づくりの活動は常にケガや事故と隣り合わせの活動です。このケガ・事故へ適切に回避・対応するための基本的な知識や、守っていただきたい注意事項などについて、今後定期的に情報を伝えていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

寒い冬はアクティブストレッチでさらなるケガ防止

準備体操では、いつもの準備体操に加えて活動でよく使う筋肉へのストレッチを加えることで、よりケガを防止することにつながります。なにより筋肉痛の軽減にもつなげることができます。

また、肩甲骨部分、股関節部分をストレッチし柔軟にすることで筋肉への余計な負担軽減が見込まれます。具体的には、

- ①準備体操でも行っている伸脚後の左右の体重移動
- ②片脚立ちして反対の脚を前後左右に振ることで股関節を柔軟にする
- ③両肘を90度曲げた状態で前に出し、手のひらを上に向け手を開いたり閉じたりする
- ④上体を軽く前屈した状態で手を平泳ぎのように動かす（ベントオーバー・プルダウン）ことで肩甲骨を柔軟にする

などのアクティブストレッチも無理のない範囲で取り入れると効果的です。

筋肉痛防止対策として、活動後にもストレッチを行うことでかなり改善されるので是非ともお試しください。

冬でもマダニ対策？！

この時期ふと寒さが和らぎ小春日和になる時があります。マダニなどのダニ類はハチのような昆虫と違い冬眠という越冬形態をとらず、適した環境下ですぐに通常の形態に戻ることができます。このため気温が16°Cを超えたあたりから吸血対象を探すことができます。



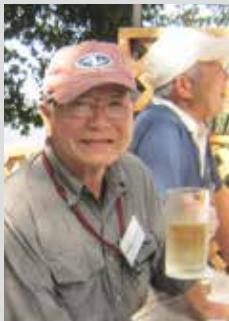
しかし安心してください。マダニはヒトなどの動物にとりついてもすぐに吸血を開始する訳ではなく体表上の吸血に適した場所を数時間かけて探します。なので、森づくりの活動を行った日は帰宅後すぐに入浴し体表にとりついたダニを洗い落とすことで吸血率はぐんと下がります。

すでに吸血されている場合、ダニは口吻からセメント物質を注入し口吻が外れないように固定するため、無理に引き剥がすと頭部が引きちぎれて体内に残ってしまいます。一説では引きちぎられることで唾液中のウイルスやリッヂケア、原虫などが体内に入り感染するとされています。このため、必ず皮膚科などで切除してもらうようにしてください（切除したダニはもらって保管しておき、万が一感染発症した際は医療機関へ持参する）。



ダニ感染症対策を詳しく知りたい方はこちらから

*「森づくりフォーラムシンポジウム 事故事例から考える！森づくり活動の安全対策」(2022/12/21 開催)より一部改変
 ★次回以降取り上げてほしい安全・救急対策がありましたら、森中 (hiroharu.morinaka@gmail.com) まで。
 ★KeyWord:# アクティブストレッチ # マダニ



突然の別れ
三葉さん

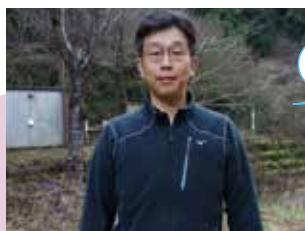
仲洋二



三葉さん！本当に突然の別れでした。私が最後に三葉さんと会ったのは10月15日（土）の物づくり班の定例作業日。7月から始めた、高尾の森づくりの会のベース建物・テラス・トイレ小屋の再塗装作業。三葉さん、松川さん達が先導しその指揮の下で足場組み、洗浄、塗装、足場解体と進めていました。15日の三葉さんはベース外壁の塗装の出来を満足そうに見て、「これで後5年は持つな！」と。その翌日に亡くなられるとは…。

三葉さんは主に、物づくり・小屋管理班の活動で長いお付き合いをしました。器用できっちり屋の三葉さんは設備・道具の整理整頓、維持管理のお手本でした。イベント出店用の三葉さんの工作品—椅子、CDラック、靴べらなど—は丁寧な造りで好評でした。三葉さんが彫られた市ヶ谷の日本山岳会の看板は今も健在です。ユニック車のクレーンが扱え、大口径木の移動は三葉さん頼りでした。また、よく一緒に飲みました。遊びました！若さに任せてボーリングも。佐川の森づくり、蔵王や岩岳でのスキー行、物づくり班のメンバーと一緒に旅行で田貫湖、奥日光、秩父など。最後に遊んだのは2022年10月4,5日の乗鞍高原・上高地巡りでした。もっと、ご一緒できるものと思っていましたのに本当に残念です。

長い間のご指導、お付き合いに感謝し、心よりご冥福をお祈り致します。



山本真史です

「森づくりも面白いものだ」と思い

和歌山県出身の山本です。現在は税理士事務所に勤めておりますが、コロナで原則リモートワークになったため、パソコン一つ抱えて東京に出てきて仕事しております。大学卒業後、企業に勤めたり、独立したりしましたが、その中で地元の森林組合に勤めた時期がありました。その時、なんと労働災害の多い環境だろうとショックを受け、退職してしまったのですが、退職後も山への思いは捨てきれず模索していたところ、上の経緯でリモートワークになり、これ幸いと昼は東京の山を散策し、夜はパソコンをはたいております。災害の少ない林業に興味がありましたが、御岳俱楽部や高尾の森づくりに参加する中で「森づくりも面白いものだ」と思い、森づくりに対する知識や経験を少しづつ貯めていこうとしております。しばらくは和歌山と東京を往復しますが、将来的には東京近辺に拠点をかまえ、仕事をしながら山に関わっていく予定です。どうぞよろしくお願ひいたします。

新会員紹介

五十幡広樹です



植えた木の成長を楽しみに

このたび、高尾の森づくりの会に入会させていただきます、五十幡（いそはた）広樹と申します。藤沢市在住で海まですぐ近くに住んでいますが、なぜか登山にはまり海に行かず山に通っています。（最近はさぼりがちですが）

私と会との出会いは、2019年に「みどりにふれあうフェスティバル」で会の活動の話を聞きしたことでした。そのとき購入した折りたたみの台は、今でも我が家で活躍しています。入会のきっかけは、森林に詳しい先輩に、山で見かける木、植物についてレクチャーを受け興味をもったこと、また、仕事で森林認証に携わっており、森林、林業に関して勉強をするうちに、実際に森林の保全や植林の活動に参加してみたいと思ったことです。まったくの未経験の新人ですので、道具の名前から覚えてはならないですが、自分の植えた木が成長することを楽しみに頑張りたいと思います。

どうぞ、よろしくお願ひいたします。

藤原弘です



「来てみたら？」の一言で

はじめまして。11月に入会しました藤原弘です。10年ほど前から八王子に住み、常に身近にある高尾山の自然に興味がありました。たまたま誘われた飲み会で小山さんと「会」のお元気な先輩方にお会いして盃を交わすようになり、「来てみたら？」の一言に促され「晴れて」入会となりました。鮫島さんによる丁寧な体験研修を受けたその日が「ミニ植樹祭」、11月20日には清新1小のお父さんの会のサポート、そして12月定例会では、所属したB班として218林班の間伐作業とそれに続く忘年会と慌ただしく活動を致しました。

1年ほど前から土いじりを始め、手作業による無農薬の作物栽培をしていた為、体力には多少の自信はありました。山の中の道なき急斜面を登っての作業は、その自信を見事に打ち砕いてくれました。今後は少なくとも活動の足を引っ張る事の無い程度の脚力を身に付けて臨みたいものです。よろしくご指導くださいね。

活動記録

11/1	一丁平作業 (会員8名、京王2名)
11/12	定例作業、法人向けミニ植樹祭 (会員61名、法人14名、体験1名)
11/16,17	美林見学会 (長野県大町市、7名)
11/19	599 ミュージアム展示会 ~ 11/27 (来場者1722名、会員延べ62名)
11/20	清新第一小学校 父子森林スクール (父兄26名、小学生31名、会員16名)
11/26	機械作業実践講習 3 (講師4名、受講生2名)
12/10	定例作業 (会員55名、法人13名、体験4名) 忘年会 (会員55名、法人4名)
1/14	定例作業 (会員55名、法人3名、体験4名)
1/22	都有林プロジェクト (6名)
1/28	機械作業実践講習 4 (218林班、8名)
2/11	定例作業 (会員41名、法人2名)

2023年度 会費・保険料納入のお願い

新年度の会費・保険料の納入をお願いします。

1. 納入には郵便振替をご利用ください。

会報88号に同封した「ゆうちょ銀行振込取扱票」にて納入ください。
現金振込時の手数料(¥110)は振込者負担になります。
ゆうちょ銀行カード、ATM振込時は無料(振込料金は会が負担)です。

- 口座記号番号 00160-3-688239
- 加入者名 日本山岳会「高尾の森づくりの会」

2. 他の金融機関からの振込の場合

- 銀行名 ゆうちょ銀行 019(ゼロイチキュウ) 店
- 当座預 口座番号 0688239
- 口座名 日本山岳会「高尾の森づくりの会」

3. 納入期日 3月24日(金)

3月末に一括ボランティア保険に加入の手続きを行う関係上、
期日までの納入にご協力を お願い致します。

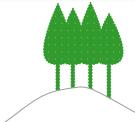
4. 納入金額

	年会費	ボランティア保険料	合計
賛助会員	3,000円	なし	3,000円
一般会員	3,000円	500円	3,500円
家族会員	2,000円	500円	2,500円
学生	1,000円	500円	1,500円

注 1:他の団体等でボランティア保険に加入する場合は、その団体名等を振込票に記入して連絡ください。重複して加入する必要はありません。

注 2:従前より機械作業者登録をしている方で、今後この登録を継続しない方も、同様にその旨を振込票に記入してお知らせください。

編 集 後 記



私事ですが、先日 目の手術をして半世紀におよぶド近眼メガネ生活から解放されました。それと同時に、この時期本格的な花粉のシーズンに突入です。今年の花粉の飛散量は昨年の2倍以上だととか? そんなこともあり花粉の発生源でもある高尾の森の作業用に保護メガネなるものを購入してみました。これからはメガネで楽しみたいと思います。(大島徹)

活動実績と予定

2/25	機械作業実践講習 5 都有林プロジェクト
3/11	定例作業
3/25	都有林プロジェクト
3/27~4/2	599 ミュージアム展示会
4/8	定例作業
4/9	2023年植樹祭
4/16	京王親子森林体験スクール
4/22	都有林プロジェクト

会員動向

入会: ようこそ

五十幡 広樹さん、丹治 泰子さん、
山本 真史さん

退会: お疲れ様でした

福井 雄登さん

幹事会報告

(詳細はホームページ会員専用ページを参照ください)

◆ 11月

協議事項 1. 新板当作業地の 5 か年計画について
協議事項 2. 森の研修「植栽地作り」について
報告事項 板当国有林の官庁手続き状況、他

◆ 12月

協議事項 1. 新たな植樹用ギャップ地調査について
協議事項 2. ミニ植樹祭、美林見学会、他イベント結果

◆ 1月

協議事項 1. 日本山岳会 / 自然保護委員会の全国集会について
協議事項 2. チェーンソー更新、4月植樹祭について、他

連絡事項



● 林道第1ゲート西側 50m 区間の復旧工事が 2023 年 3 月末完成で施工中です。

歩行通行は可能ですが十分注意してください。

● 定例作業時の道具の借用手続き・整備は、朝礼前に実施ください。

